

徐右湯門重棟を呼出し。是下の逞兵五千餘人以引率して鶴見門
以下小埋伏を爲し。時刻試合せ擊て出。愾忙先陣を。至二更に
攻居爲し。其時の方術ハ那般ごと譲そにぞ。別所重棟譲受下を
る。次小の秀吉自認のうちより。蜂湊賀小六同又十郎朴子田半左
衛門中村孫平次坂尾辰助脇坂基内。こゝより壯士ふ。六千餘人以
退兵法副。鶴見門の遠方より岸の左右に埋伏させ。暗号次第に露
窓を以て。封識と譲りて彼等小遣を。備秀吉ハ加茂福徳序桐
扇井城を下り。鶴見虎士の撰武者。五千餘騎はく以て如
く。上月の城攻捉圍三直家來くべ偽をせよ。總令直家と遂極る
も。かくび陥捉ことみれ。後小用やりことこそゆゑ。と残る限ふ
く指揮城傍へ准備悉く整ひ乞をば。まく備布小分配して。
敵の来る所相応々。斯とも初び淳田直家。先敗の耻辱を嘗
ぐんと憤怒ハ猛氣兜鐵衝す。激膏起くぞ推進するを秀吉
影と視るよりも。一千五百近く城と圍ませ。三千五百隊一面小隊伍
を。後援の淳田直家ふ。當り戦さんと構へ。淳田勢へ近づく
や。いふや。多勢ハ威小矣トだ。魁隊の兵士二三百。鳥銃火器敵を蒐
り去に一同鎗矢撃へ。只一撃に崩破。其烈しきと墮雷の
列を察して崩き起。秀吉大みこれを怒りて。遠き自軍に奉止
か。淳田と敵ての鬪合ふ。鄙怯城をもと呼ぶれども。耳にもひき
散れざり。淳田直家これと見く。然こそゆめとうら笑ひ。自軍
を懲り。單騎急に。まづかく正魁小進蒐る。これふもとく羽柴勢。